

立佞武多とは

五所川原立佞武多は青森県五所川原市で開催される夏祭りです。高さは約20m以上、重さ約17tあります。その歴史は昔、あきざぼらい禊ぎ祓いとして行われた夏の行事において、とうろう燈籠を作られていたものがいつしか組み人形として作られるようになったのが原形として考えられています。

立佞武多の伝説

伝説では、さかのうえたむらまろ坂上田村麿が蝦夷征伐のとき、山野に隠れていた敵をおびき出す方法として大きな人形を作ったことが起源とされています。また「眠気」を流して仕事を促す行事とも言われています。

立佞武多の始まり

明治～大正の時代、五所川原では電線がなく道幅が狭いため、ねぶたの丈はとても高くなりました。しかし、昭和に入り電線が張り巡らされると、巨大なねぶたの運行は困難になり、次第に現在の型になって行きました。平成8年に立佞武多が復元され津軽半島地域の知名度を高めるなど大きな影響を与えています。

立佞武多 五所川原

